

**次期愛知県観光振興基本計画（仮称）検討委員会
第1回全体会合 議事録**

■日 時

2023年5月10日（水）10：00～12：00

■場 所

愛知県庁本庁舎6階 正庁

Zoom *ハイブリッド形式により開催

■出席者

●委員（敬称略）

◎…委員長

○…副委員長

所属・職	氏 名	形式
株式会社カーネル総研 取締役 コンテンツ・プロデューサー 中部圏インバウンドセールスプロジェクト 事務局長	あかさき まきこ 赤崎 真紀子	対面
日本政府観光局（JNTO） MICE プロモーション部次長	いたがき あやこ 板垣 彩子	オンライン
国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学大学院 情報学研究科 准教授	うらた まゆ 浦田 真由	対面
株式会社行楽ジャパン 代表取締役社長	えん せい 袁 静	オンライン
国立大学法人和歌山大学 経済学部 教授	おおさわ たけし ◎大澤 健	対面
株式会社リクルート じゃらんリサーチセンター長	さわのぼり つぐひこ 沢 登 次彦	オンライン
日本薬科大学 特別招聘教授 内閣府クールジャパンプロデューサー	じんない ひろき 陳内 裕樹	オンライン
名城大学 名誉教授	ふたがみ まみ 二神 真美	対面
東海学園大学ともいき教養教育機構・経営学部 客員教授	よこやま ようじ ○横山 陽二	対面

*欠席：有限会社パスト・プレゼント・フューチャー 代表取締役 クリス・グレン

●オブザーバー（敬称略）

所属・職	氏名	形式
公益社団法人日本観光振興協会 中部支部 事務局長	にしむら てつじ 西村 哲治	対面
一般社団法人中央日本総合観光機構 常務理事・事務局長	おぎの みつたか 荻野 光貴	対面
一般社団法人愛知県観光協会 専務理事	さかきばら ひとし 榊原 仁	対面

●事務局（愛知県観光コンベンション局）

所属・職	氏名
顧問	たけだ みつひろ 武田 光弘
局長	あちわ さとし 阿知波 智司
観光推進監	あさだ じんさく 浅田 甚作
観光振興課 課長	おおみ たかあき 大参 孝彰
国際観光コンベンション課 課長	ただ かおり 多田 花緒里
国際観光コンベンション課 担当課長	あんどう よしお 安藤 嘉雄
国際観光コンベンション課 国際展示場室 室長	すずき たろう 鈴木 太郎
国際観光コンベンション課 国際展示場室 担当課長	うえだ しげる 上田 茂

観光コンベンション局各課長補佐・室長補佐同席

開 会

○大参課長

それでは、時間となりましたので、次期愛知県観光振興基本計画（仮称）検討委員会の第1回全体会合を始めさせていただきたいと思っております。私は、本日の進行役を務めさせていただきます、観光振興課長の大参でございます。

それでは、開会にあたりまして、阿知波観光コンベンション局長より、ごあいさつさせていただきます。

○阿知波局長

本日は、御多忙中にも関わらず、本委員会に御出席を賜りまして、心から御礼を申し上げます。この4月の移動によりまして、観光コンベンション局長の拝命を受けました。また、前任の武田につきましては、顧問として引き続き本県の観光振興の取り組みに大所高所から指導をいただくこととなりましたので、この場をお借りし、ご報告いたします。

さて、新型コロナウイルス感染症を巡る状況につきましては、水際対策が4月28日を以って終了し、5月8日には感染症法上の位置づけが「5類」に引き下げられ、足元のゴールデンウィークは多くの方が移動をし、また、観光地がにぎわうなど明るいニュースが続いております。

現行の計画である「あいち観光戦略2021-2023」の検討を進めておりました、まさに3年前の2020年5月は、本県にも非常事態宣言が発出され、先行きが見通せない中、感染拡大の状況と旅行マーケットの回復度合い具合を両にらみしながら計画の策定を行うこととなり、大変難しい作業となりました。

この3年間、予断を許さない状況ではあったものの、本県といたしましても、現行計画に基づいて、感染状況を見据えながら、国の消費喚起事業に関する財源をフルに活用いたしまして、反転攻勢となる需要喚起策に組んでまいりました。この効果もございまして、愛知県内における日本人宿泊者数は、昨年秋以降コロナ禍前の2019年を上回る月が連続するようになりました。統計の上では、すでに、コロナ禍前の水準に回復したといえる状況でございます。

他方で、外国人旅行宿泊者につきましては、昨年、秋の水際対策の緩和以降、復調傾向ではあるものの、2023年2月時点では、2019年同月比マイナス71.3%と、コロナ禍前の水準には程遠い状況でございます。今後、中部国際空港の中国路線が復活するにつれ、外国人宿泊者数も力強く回復していくものと期待をしているところでございます。

また、本県では、2026年にアジア、アジア競技大会の開催、翌2027年度にはリニア中央新幹線の開業など、この地域の旅行マーケットに大きな影響を及ぼすプロジェクトが目白押しでございます。そうした中で、本県といたしましては、これらプロジェクトの効果を活かし、施策形成が重要だと考えております。

本日は、委員の皆さま方には、新たな計画づくりにあたり、忌憚のない御意見をたくさんいただきまして、そしてその御意見をふまえ、愛知の観光の飛躍につながる計画を策定してまいりたいと存じます。どうぞ、私どもにお力添えくださいますよう、お願い申し上げまして、私のあいさつとさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願いをいたします。

自己紹介

○大参課長

それでは、議論を始めていただく前に、本委員会は今回が初めての開催ということになりますので、委員及びオブザーバーの皆様方に、簡単に自己紹介をお願いできればと思います。お手元に出席者名簿順に赤崎委員からごあいさついただければと思います。よろしくお願いをいたします。

○赤崎委員

皆さん、おはようございます。

株式会社カーネル総研の赤崎真紀子と申します。私はよそ者で名古屋にまいりましたので「いったい名古屋って何があるんだろう」みたいな感じで、実は期待薄でした。が、来てみると海も山も近く、何より興味をひかれたのが、尾張徳川の武将文化、大名文化がしっかり残っているということと、モノづくりの文化です。そこで、これまで長く愛知県の武将観光などと産業観光の推進にコンテンツ企画・制作の立場から携わってきました。

今回の委員会で何かお役に立てればと思っておりますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

○大参課長

板垣委員、お願いします。

○板垣委員

私は日本政府観光局（JNTO）MICE プロモーション部の板垣です。今日はオンラインでの参加ですが、今後、是非愛知県にも訪問させていただきたいと思っております。

私は、JNTO の香港事務所及びロンドン事務所に勤務し、インバウンドにおける一般的な観光とインセンティブ旅行の誘致プロモーションに取り組んできたほか、国際会議の誘致にも携わってきました。本委員会におきましては、これまでの経験を踏まえながら、貢献できればと思っております。それでは、どうぞよろしくお願いをいたします。

○大参課長

浦田委員、お願いをいたします。

○浦田委員

名古屋大学大学院 情報研究科の浦田です。

私自身はデジタル技術の社会実装を研究テーマにしており、自治体や企業などと連携しながら観光や福祉、防災などの分野を対象に実証実験を行い、デジタルの活用を推進しています。総務省の地域情報アドバイザー、デジタル庁のオープンデータ伝道師に就任している他、去年は、高山市での「観光DX」の取り組みが、「冬のDigi 田甲子園」で審査員評価1位をいただきました。多様な組織で連携推進する「観光DX」という観点でからお役に立てればと考えております。どうぞよろしく願いいたします。

○大参課長

袁委員、お願いいたします。

○袁委員

私、上海出身の袁と申します。今日も上海に戻って来ておりますので、オンライン参加で参加させていただきます。私が代表を務めている「行楽」の紹介をさせていただきますと、14年前に上海に立ち上げた会社で、中国のミドルクラス以上の方々向けに日本の本格、本物の情報をお伝えするメディアとして発信させていただいています。現行計画の検討委員にお声がけいただいた縁もあり、愛知県も何度か訪問させていただきました。これまでの経験とネットワークを生かして、コロナ後の、中華圏富裕層の愛知への誘客に係る部分について貢献していきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

○大参課長

大澤委員、お願いいたします。

○大澤委員長

和歌山大学の大澤といいます。私は、愛知の方が愛知の魅力を掘り起こしていくという事業「あいち観光まちづくりゼミ」に2010年から携わってきました。全国いろいろなところで、「観光まちづくり」の手伝いをしていく中で、愛知県ぐらい「観光まちづくり」をやるうえで、恵まれた場所はないのではないかと感じています。外から見たイメージは、愛知で観光というのは印象がないのかもしれませんが、掘れば掘るほど魅力がでてくるという、本当に奥深い場所だと感じております。この魅力を生かした観光をどの様に推進していくのかということ、計画づくりを通じて考えていけないといけないと考えています。どうぞよろしく願いいたします。

○大参課長

沢登委員、お願いいたします。

○沢登委員

じゃらんリサーチセンターの沢登です。私は、観光に関する研究と観光地域支援を行っている。じゃらんリサーチセンターのセンター長を務めており、これまでも多くの地域の皆さまと観光手段とした地域づくりに取り組んできました。地域の誇りとなるテーマに対して、「ツウリズム」という考え方を掲げ、進めていこうという現行の計画には、大変共感しています。それがどのような発展していくのか、この先一緒に考えていける場にいられることを嬉しく思っております。どうぞよろしく願いいたします。

○大参課長

陳内内委員、お願いいたします。

○陳内委員

陳内裕樹です。日本薬科大学の招聘教授、内閣府の「クールジャパン」プロデューサーの立場で関わらせていただきます。私は、現在、知事や市町村長の皆さまと、「DX」の定義・目線を合わせる活動を進めています。中でも、本日の議論にも出てくる「観光DX」は、言葉がまだ出始めてそんなに経っていないこともあって、皆さまの認識がそろっていないと感じることが多くあります。その辺りも含め議論しながら、この計画が、何のため誰のためものなか、根本的な部分も再定義する必要があります。関係人口と定住人口の増加のためには、観光こそが施策の要であると考えています。観光施策においても、デジタルはあくまで手段です。目的は、「観光客の幸せのため」と「県民の誇りのため」。どのような数値目標で、データに基づいて政策判断でできるかというような事柄は、非常に重要だと思っていますので微力ながら貢献できるように頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○大参課長

二神委員、お願いいたします。

○二神委員

二神と申します。私は4月からは名城大学での指導には一旦区切りをつけ、2000年のはじめ頃から20年近く取り組んできた、「持続可能な観光、地域づくり」に力を入れています。2015年からは「持続可能な観光」のための、世界的な基準を作っている国際組織の「グローバルサステナブルツーリズムカOUNシル (GSTC)」の公認トレーナーとして講師を務めています。今後は、そういった分野の人材育成に尽力してまいりたいと考えていることです。よろしくお願いいたします。

○大参課長

横山副委員長、お願いいたします。

○横山副委員長

東海学園大学の横山でございます。私は、いかにして日本を世界に発信していくのかという広報と、観光を手段として地域の社会課題を解決していく手法を専門にしています。

愛知県の観光基本計画検討委員会に参加させていただくのも今回で3回目になります。今後も「愛知県を観光県にする」という高い志を持って頑張っていきたいと思っておりますので、ご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

○大参課長

委員の皆様、ありがとうございました。

なお、本日は、クリス・グレン委員から御欠席の御連絡をいただいております。引き続きまして、オブザーバーの皆さまから、それぞれ自己紹介をお願いしたいと思います。まず、西村様、よろしくお願いいたします。

○西村オブザーバー

日本観光振興協会 中部支部の西村でございます。よろしくお願いいたします。

日本観光振興協会は、北海道から沖縄まで9つ支部がございます。各支部の役割は、各エリア内の情報を本部に伝えることと、地域に即した事業を行っていくところになります。皆様ご承知のとおり、愛知県は「ものづくり」の県でありますから、私の普段の活動の中心は産業観光の振興中を心に進めております。よろしくお願いをいたします。

○大参課長

荻野様、よろしくお願いいたします。

○荻野オブザーバー

中央日本総合観光機構の荻野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

これまで、旅館の現場、地域のDOMに携わってまいりました。今の所属である中央日本総合観光機構は、北海道から沖縄まで10ある「広域連携DMO」の一つになります。担当しているエリアは、愛知県をふくめ、9県になります。私の立場としては、インバウンドの施策を中心に、皆さまのご意見を今後の取組の参考にさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○大参課長

榊原様、よろしくお願いいたします。

○榊原オブザーバー

おはようございます。愛知県観光協会の榊原です。

私自身、現在の立場は、今年度で4年目に入るという状況でございます。これまで、交通、航空、いわゆる一次交通、二次交通、あとは三次交通といった分野の業務に携わってまいりました。こでういった経験も踏まえ、お役に立てればとオブザーバーとして参加さ

せていただいています。

愛知県観光協会は、今まで企画広報部と、誘客事業部の2部体制でしたが、県域DMOとして、基礎自治体の観光協会を支援し、地域間の連携を促す役割を担うため、今年度から地域連携部を新たに設けました。よろしくお願いいたします。

○大参課長

オブザーバーの皆さま、ありがとうございました。

議題1 次期愛知県観光振興基本計画（仮称）の策定について

○大参課長

それでは議事に入らせていただきます。この検討委員会は、設置要綱において示させていただいております通り、委員長を和歌山大学の大澤教授に、副委員長を東海学園大学の横山客員教授にお願いしております。どうぞ、よろしくお願いいたします。

それでは、ここからの進行は、委員長でございます大澤教授にお願いしたいと思います。

○大澤委員長

それでは、議事を始めさせていただきます。後ほど、説明があるかと思いますが、計画づくりは今年度末までの作業になります。長丁場となりますけれども、活発な意見交換をお願いいたします。

本日は議題が2つございます。まず、1つめの議題「次期愛知県観光振興基本計画（仮称）の策定について」、事務局の方から説明をお願いいたします。

○渡邊課長補佐

観光振興課 企画グループ課長補佐の渡邊でございます。

議題(1)「次期愛知県観光振興基本計画（仮称）の策定について」、説明させていただきます。着座にて失礼いたします。

資料1をご覧ください。A4、1枚になります。

愛知県観光振興基本条例に基づきまして、知事は観光振興に関する基本的な計画を定めることとされております。2010年度に初めての計画を策定いたしました。第2期計画は2016年度から2020年度まで、現行計画である第3期計画の「あいち観光戦略2021-2023」は今年度末を以って計画期間が満了の予定です。そこで、今回、来年度（2024年度）からの第4期計画を策定することとしております。

策定主体は、知事を本部長とする愛知県観光振興推進本部会議となりますが、具体の中身の検討につきましては、有識者等の皆様で構成する「検討委員会」にて御意見をいただきながら、進めてまいりたいと存じます。本日がその第1回全体会合でございます。

スケジュールは、本日、第1回全体会合を開催させていただいた後、委員の皆様には2

つの部会に分かれていただきまして、それぞれ2回ずつ、部会での御議論をいただきたく存じます。途中、市町村からも御意見を聴取する予定でございます。その後、パブリック・コメントを実施しまして、県民の皆様から御意見をいただいた上で、最後にもう一度、全体会合を開催して、皆様に最終案の御確認をいただきたく存じます。その後、推進本部会議での決定を以って、策定としたいと考えております。あわせて、議会にも策定の報告をいたします。

以上で、議題(1)についての説明を終わります。ご審議のほど、よろしく願いいたします。

○大澤委員長

ありがとうございました。

以上の説明につきまして、委員及びオブザーバーの皆さまから御発言をいただきたいと思っております。御意見や御質問等がありましたら、お願いいたします。

大丈夫でしょうか。

次の議題の時には、皆さんからしっかり御意見をいただきたいと思っておりますので、議題1についてはここまでといたします。

議題2 次期愛知県観光振興基本計画（仮称）の骨子案について

○大澤委員長

それでは、引き続き、2つめの議題「次期愛知県観光振興基本計画（仮称）の骨子（案）」について、事務局から説明をお願いします。

○渡邊課長補佐

資料2をご覧ください。A3のものになります。

こちらの骨子（案）は、現行計画の進捗状況や昨年度実施いたしました、有識者の皆様へのヒアリング、市町村や観光関連団体等の皆様へのアンケート、県民を対象にした県政世論調査の結果、私ども観光コンベンション局職員によるワーキング・グループでの議論を踏まえて作成したものでございます。

まず、「計画の数値目標」の進捗状況につきましては、資料3-1にまとめてありますので後ほど、ご覧いただければと思います。

それでは、資料に沿って説明させていただきます。まず「計画の位置づけ」です。この計画は、愛知県観光振興基本条例に基づく観光振興に関する基本的な計画です。あわせて、本県の進むべき方向性を示す「あいちビジョン2030」の個別計画であり、観光振興分野の具体的な施策の方向性を示したいと考えております。

次に、「計画の性格」です。この計画は、旅行者の受入れの主役は、地域と事業者であるという認識のもと、県内の観光関連産業の振興を図ることを目的に、歴史・産業・自然・

文化といった本県に根付く地域資源を高付加価値な観光コンテンツとして磨き上げ、ターゲットに的確に伝える「あいち『ツウ』リズム」のコンセプトを継承しつつ、デジタルを基盤に据えた施策立案とイノベーションの創出を強く意識したアクションプログラムにしたいと考えております。

次に「計画期間」でございます。次期計画の期間は、観光を取り巻く激しい環境の変化に対応し、時流を捉えた計画とするため、現行の計画と同じく3年間とし、2024年度～2026年度を想定しております。

以上のような枠組みの中で、次期計画はどのような「目指すべき姿」を掲げるべきかを検討いたしました。資料の1枚目の中段から2枚目にかけてご覧ください。まず、前提として現行計画の振り返りを含めた「愛知の観光を取り巻く状況」、それから「愛知の観光をめぐるSWOT分析」、また「愛知の観光をめぐるクロスSWOT分析」をご覧の資料のとおり整理しております。これらを踏まえまして、2枚目の下段に記載のとおり、「観光振興の推進における基本的な方針」を取りまとめました。県や市町村、地域観光協会、観光関連事業者における観光DXの推進と、企業や学術機関、スタートアップ等の多様な主体を巻き込んだイノベーションの創出を促すことで、現行計画で掲げた「あいち『ツウ』リズム」のバージョンアップを図ることとしています。こうした一連の取り組みは、観光関連産業はもちろん、地域資源の持続可能性を高め、県民のウェルビーイングの向上につながることを基本的な方針としています。

以上の検討をもとに、資料3枚目上段のとおり、「目指すべき姿」として、「～ あいち『ツウ』リズム 2.0 ～デジタルとイノベーションで追い上げる「観光県・あいち」」を掲げました。

さて、「目指すべき姿」を実現するためには、どのような領域で施策を講じるべきか、領域を5本の柱として資料の3枚目中段以降に整理しております。

1つ目の柱は、「観光資源の高付加価値化」です。本県に根差した地域資源を「ツウ」な魅力として磨き上げたり、ジブリファン向けに編集したりして高付加価値化することで、満足度・推奨度の向上と観光消費額単価の向上を図ることとしております。

2つ目の柱は、「PR・プロモーション」です。本県ならではの「ツウ」な魅力やジブリファンが関心を寄せそうな魅力を適切なターゲットに的確に送り届ける効率的なPR・プロモーションを実施し、具体の誘客につなげることとしております。

3つ目の柱は、「受入れ環境の整備」です。ユニバーサルツーリズムや観光関連施設の高付加価値化を促進するとともに、移動や消費の円滑化を図り、交流人口・関係人口の増加を促すことで、誰もが楽しめる観光地づくりを推進することとしております。

4つ目の柱は、「観光人材の育成・観光関連産業の労働生産性の向上」です。観光関連産業の労働生産性の向上の取組を推進するとともに、地域で活躍する観光人材の育成を支援します。また、県民の県内観光推奨意向の向上を図ることとしております。

5つ目の柱は、「MICEの誘致・開催に向けた取組強化」です。充実した施設を最大限活用するとともに、関係者間の連携を密に図ることで、本県の産業特性と親和性があるMICEの更なる誘致・開催につなげることとしております。

以上が、「目指すべき姿」を実現するために講じる施策の柱の説明でございました。

最後に、この計画の数値目標でございます。現行計画と同様の「観光消費額」、「観光入込客数」、「観光消費額単価」をKGIとして想定し、KPIとして考えられる指標を、基本的な方針に沿って記載しております。

以上で、議題(2)についての説明を終わります。ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

○大澤委員長

ありがとうございました。

以上の説明につきまして、まず、委員の皆さまからの御意見をいただきたいと考えております。委員の方々から御発言をお願いいたします。

では、二神委員、よろしくお願いいたします。

○二神委員

目指すべき姿を「デジタルとイノベーションで追いつける『観光県愛知』」と定めるのは、大変良いと思います。新型コロナウイルス感染拡大の状況下においてDXが進みまし、イノベーションの創出は継続して取り組む必要があり、まさに愛知の強みがあると感じます。

海外の報道や文献を見ていると、インバウンド市場において、ジブリの吸引力は強力であると改めて感じます。今まで愛知は通過してしまう場所であったけれども、ジブリパークのオープンによって、必ず愛知に行きたいという外国人は多くなるだろうと思われます。ジブリパーク来園者へ、愛知のもつ様々な多面的な「ツウ」な観光をより分かりやすく説明する、または見ていただく取り組みは、重要だと思しますので、方向性として非常に良いと思います。

国の計画である「観光立国推進基本計画」の中には、「持続可能な観光」に取り組む地域を増やしていく動きが強く表現されています。昨年度は、南知多町が、オランダを拠点とする国際認証機関「グリーン・デスティネーションズ」に「持続可能な観光地トップ100」として選定され、今後もさらに取り組みを進めると伺っているので、愛知県としても、「持続可能な観光」への取組を強く打ち出していきたいです。

MICE分野においても、「持続可能なMICE」推進のための指標が今年度末に策定される予定です。誘致の際に、「CO2ゼロエミッション」の取組、フードロス対策など、サステナビリティに配慮した取組を行っている施設や地域が、優先的に選ばれてくる可能性があります。こうした「持続可能な観光」の取組を、包括的に取り組んでいくという姿勢や意思が、現在の骨子案では不足していると感じます。

また、進捗管理でも、愛知県と同規模の兵庫県や沖縄県、神奈川県でも、「持続可能な観光」に取り組んでいる事業者数の数や観光庁が作成した「日本版持続可能な観光ガイドライン(JSTS-D)」への取組に係る指標を挙げています。愛知県としても他県を参考に、「持続可能な観光の実現」に係る進捗管理指標を定めると良いかと思えます。

最後に、「あいち「ツウ」リズムのバージョンアップ」に係る管理指標として記載されているボランティアガイド数ですが、一般的な観光ガイドだけでなく、文化保全・環境保護を考慮したガイドができる人の数ですとか、こちらでも「持続可能な観光の実現」に資する指標が検討できるのではないかと感じています。

○大澤委員長

はい。ありがとうございます。その他、御意見をいただければと思います。

○板垣委員

二神委員の御意見、私も非常に共感させていただきました。今サステナビリティはMICE分野においても、非常に重要視されてきており、昨年度、JNTOにおいてもMICEにおけるサステナビリティの調査を実施しました。その中で、海外から日本を見ると、残念ながら、日本がサステナビリティに注力しているというイメージが弱い、というコメントがありました。国内においてサステナビリティの取組を強化すると同時に、対外的な情報発信を強化する必要があると感じています。

このため、骨子案に記載されている5本の各施策の柱のベースとして「サステナビリティ」というのを強く打ち出すべきではないかと感じております。

また、「持続可能な観光の実現」のKPIについてですが、SDGsの17の指標のうち、まずは環境配慮、CO2削減が非常に重要視されています。「環境の持続可能性」に関する具体的な指標（KPI）を挙げることで、観光施設やMICE施設、宿泊施設等における環境の取り組みを推進するという姿勢を示されると良いのではないかと思います。

MICEについては、SDGsに係る国際指標である「GDS-Index」を始め様々な指標や認定がありますので、こうした国際的な指標への参加や、認定の取得を促す取組を進めていただくのも重要です。国際指標や認証への参加が難しい中小の団体には、そうした認証制度で必要となる情報を共有したり、国内の認証の取得を促すことも有効だと思います。こういった取り組みも、指標に入れると良いのではないのでしょうか。

また、計画の根底に「デジタルとイノベーション」を取り入れるのは、大変良い方針だと思います。地元の大学や企業と連携することでイノベーションの創出を促していくのは、まさに愛知県ならではの取組であると感じますし、デジタルにつきましては、海外と比べると、日本は少々遅れているという話も訪日客からは聞きますので、このイメージを払拭するような取り組みを進めていただければと思います。以上となります。

○大澤委員長

ありがとうございます。

お二方からサステナビリティについて意見をいただきましたが、私、和歌山で「熊野古道」の振興に携わった際、「持続可能な観光」というのを掲げて、観光地づくりに取り組みました。この取り組みは、最終的に世界的な表彰を受け、集客につながりました。サステナビリティに向けた取り組みは、「取り組むと良い」ではなく、高付加価値化の戦略として

「取り組まないといけない」要素になってきています。この意味でも、お二人がおっしゃるとおり、計画の根底に位置付けるものであると、私も考えています。

それでは、その他の方はいかがでしょうか。

○沢登委員

まずは、計画の目標年の姿を作っていくべきではないだろうかと思います。手法の議論の前に、目標年には、どのような状態なのかを明確にすると良いかと思います。例えば、インバウンド客の国内客の比率、消費額単価、滞在日数と日帰り客の比率、連泊をどこまで伸ばしていくのか、ディスティネーションはどこを想定するのか、ブランドイメージは何か等。愛知県のブランドイメージが「ツウ」であるならば、愛知を「ツウ」だと思う人をどれだけ確保していくのか、など。

また、雇用面も長期的な観点からすると大事な観点ですので、雇用者数をどういうふうを増やしていくのか、あるいは雇用者の報酬のゴールイメージも持っておくと良いと思います。現状に対してゴールがあって、そのギャップをどの様に埋めていくのか、これが計画の基本的な組み立て方ではないかなと思います。

2つ目ですが、デジタルとイノベーション、サステナビリティについて、先の皆様の意見、まったくの同感です。デジタルとイノベーション、サステナビリティというのは、すべて柱の横串だと思っています。全ての柱、その柱に属する取組のすべてに、デジタル、イノベーション、サステナビリティが基盤として入るという考え方です。

サステナビリティは、大澤委員長もおっしゃったとおり、高付加価値化の要素だと、私も考えています。サステナビリティを考えると、自然環境に目が行きがちですが、伝統文化の保全・継承といった、文化・経済面での持続可能性も極めて重要な観点です。こう考えると、すでに取り組んでいることもあるのではないかと思います。愛知県の中で、観光という観点から、持続的に取り組んでいきたい資源は何かを真剣に考えることも重要です。

○大澤委員長

はい。ありがとうございます。ゴールイメージについては、成果指標で共有されるのでしょうか。

○渡邊課長補佐

ゴールイメージは、KGI や KPI として整理していきたいと思っています。本日委員の皆さま方からいただいたヒントもとに事務局で検討を進め、次の部会等で皆様にご審議いただければと思います。

○大澤委員長

現行計画の検討時にも沢登委員からお声がありましたが、今回も「ツウ」を愛知県のターゲットとするのであれば、「ツウ」をはかる指標を設定していただきたいと思います。

また、最近非常に話題になっていますが、これまで外国人労働者に支えられていた部分が、労働力の確保が難しくなっているという、観光産業における労働力の観点も検討いただければと思います。

他の委員はいかがでしょうか。

○陳内委員

皆様のお話は私も同感です。沢登委員からもコメントがあったとおり、ゴールイメージを明確化し、そこから議論をすすめるべきではないでしょうか。この資料の中では目的がちょっと不明確だと感じます。愛知県の観光施策を行なっているのか、というところの明記をされたら良いのではないのでしょうか。そこから議論が深まると思います。

骨子案のなかに「広く県民のウェルビーイングの向上に努める」という表現がありますが、観光は県民のウェルビーイング向上ではなく、観光客のウェルビーイングが先にあるのではないのでしょうか。観光を振興する理由として、「稼ぐ」と定義されることは多いですが、観光は世界から憧れられ、選ばれる愛知県に生まれてよかった、という「県民の誇り」の醸成にもつながります。「世界に選ばれる愛知」になるためには、観光客のための施策を進める必要があります。これを県民のウェルビーイングとして捉えることもできると思いますが、愛知県が世界から憧れられる地になり、最後は県民のウェルビーイングにどうつながるのかということは明確にしておく必要があると思っています。観光事業というのは、最終的に県民の皆さんに観光客が増えて、ありがたいと思っていただけるかどうかということが持続可能な観光施策のポイントだと思います。

コロナ禍で拡大してしまった観光客と受け入れ側の溝を、どの様に埋めながら施策を紡いでいくか、議論のポイントになると思っています。そういう意味で、目的の上位の方に何のためにこの議論しているのか、この次のバージョンアップの施策はどういう方向性、目的で進んでいるのかということをも明確にされるとよろしいかと思いました。

バージョンアップという言葉についても、議論がわかれていくと思います。いわゆる変革、観光DXも含めて、コロナ禍で世界の観光客の動向が変わった中で、バージョンアップという言葉でなく、再始動など、変革色強くされた方がいいのではないのでしょうか。例えば、バージョン2.0から2.1をバージョンアップと捉える方もいると思いますが、今回は、2.0を3.0、4.0にあげることで理解しています。誤解されないように議論を深め、実際の戦略の表現に落とし込めると良いかと思います。

KPIについても、広く県民のウェルビーイングの向上に努めることを、目的とするのであれば、「県民は観光客が増えて嬉しいですか」という指標を入れるべきだと考えています。結局、観光客が増えれば増えるほど、愛知県にとってどんないいことがあるのかをいう事柄を定点観測して、県民に示すことができると良いかと思います。

また、観光財源をどうするのかという議論もあります。税金で観光政策を行っていくと、観光客と受け入れ側の溝が拡大してしまいます。愛知県として広く県民のウェルビーイングの向上をつとめるということであれば、受け入れ体制の拡充・プロモーションの費用も、税金を使わず、自ら生み出すような仕組み作を進める必要があるというのが、世界の潮流

です。特に先進地域であればあるほど、遅かれ早かれ、その議論になると思っております。
以上となります。

○大澤委員長

はい。ありがとうございます。
次の方お願いいたします。

○赤崎委員

非常によくまとまった資料をご提示いただいているなと思って、拝見していました。ただ、計画を作って、誰と共有して、誰をどういう風に巻き込んで、どんな変化をもたらしたいのかが不明瞭であると感じました。先ほど沢登委員、陳内委員から「目的は何なのか」という御発言がありましたけれども、そこを明らかにしておいていただくことが必要だと思います。

資料に、観光の主役は地域と事業者だとの記載がありますが、やはりこの地域は、モノづくりで伸びてきたという背景があり、観光に関する受け入れ側のマインドセットはまだこれからだと感じています。これをどの様に変えていくのかも、この計画の中にも盛り込んでいってほしいです。

先日、ホテル業界の方から「コロナの3年間の赤字の累積がこれまでの黒字の累積の42年分に相当する」というお話を聞きました。コロナ禍によって観光に関わる各業界は本当に厳しい時期を過ごして傷んでいますから、新たに作る計画には、愛知県の観光関連事業者の皆さんが共感できる計画であって欲しいです。そのためにも、観光の最前線に立つ事業者の方達が抱えている課題や今後についての考えを伺うヒアリングの機会を持っていただくとよいかと思います。

それから、皆さんで知恵を出し合ってこれから計画をまとめていきますが、着地点にむけたロードマップを描きだしておくことも必要だと思います。今後も委員会の中で論議を深めていきながら、具体的に作っていきけるといいですね。

さらに、観光施策を進める中では、観光コンベンション局単独では解決でないことも多くあると思います。現在、愛知県が取り組みを進める、子どもの休みに合わせた保護者の有給休暇取得などを含めた「愛知イニシアチブ」も、学校現場や企業など多くの局が関わってくる取り組みだと思いますが、観光コンベンション局内だけで課題解決しようとせず、他の部署との連携、リンク、コラボレーションもぜひ進めていってほしいです。

先だって、タイム誌に世界の最も素晴らしい場所50に愛知を選出いただきましたが、記事の中では、「タワーホテル」も紹介されていました。この地域にとって大きな追い風です。この機を逃さず、地域のマインド自体が変わり、事業者さん等がじゃあ、これで一緒にやっっていこう！と思えるような計画が共有できるとよいと考えています。以上です。

○大澤委員長

ありがとうございます。

今、御三方からゴールイメージ、着地点、目的などのポイントが挙げられましたが、それをこの委員会で検討していくということでしょうか。

○渡邊課長補佐

ゴールイメージを共有すべきだと委員の皆様から御意見をいただきました。骨子案に記載した「目指すべき姿」では、ゴールイメージになっていないという御指摘だと思いますので、事務局でも再度考えたいですが、皆様からのアドバイスもたくさんいただきながら、進めたいと考えています。

○大澤委員長

たたき台を作って、ご提案いただくのでも構いませんし、検討委員会に投げてくださいこちらで検討でも構いません。今後の進め方の中で御検討いただければというふうに思います。

はい。それでは、浦田委員お願いします。

○浦田委員

名古屋大学の浦田です。骨子案、よくまとめていただけていると思います。今回、私にお声がけいただいた理由は、観光における課題解決のためのデジタルを活用の部分かと認識しています。いただいた資料3-2の「3-8 観光施策の課題解決におけるデータ活用状況」の市町村へのアンケート結果を見ると、収集するデータの種類、収集したデータの観光施策等への活用イメージがわからないという意見が一番多いですね。「観光 DX」をやりましょうというだけではなく、愛知県として具体的なデータ活用の手法やガイドラインを提示するなどの取組を進めた方がよいのではないのでしょうか。以前、愛知県のオープンデータの研究会に参加した際、県のガイドラインがあることで各市町村はそれにならって取組を進めていこうと姿勢がみられましたので、デジタルの活用方法について具体的に提示したほうが「観光 DX」は進むのではないかと思います。岐阜県では、県の広域で観光マーケティングに必要なデータを取得（岐阜旅コイン）できる取組みが成熟してきていますので、参考になると思います。

先ほど「県民にとって観光客が来て嬉しいかどうか」というお話が、陳内委員からありましたが、「観光貢献度」という言葉があります。観光客が来ることがどれだけ、地域、愛知県にとっていいのかが評価できると、観光客を受け入れる県民の満足度につながっていくと思います。

少し余談になりますが、「観光情報学会」にてジブリパークの分析が発表されていました。今のジブリパークはどちらかというとミュージアムというような位置づけだと思いますが、ネコバスの様なジブリの世界観に沿った乗り物が走っていたら、よりいいのかなという意見もありました。他にも、『愛・地球博』の時に盛り上がった地元住民がリピーターとして通うようにするには、「モーニングの文化」をジブリパークで取り入れるなどもいいのではないかと意見もありましたので、この場で共有させていただきます。

私からは以上です。

○大澤委員長

はい。ありがとうございました。では、他の委員の方からもいたければ。

○袁委員

今まで発言されました委員の方々の話に同感です。私、現在、2、3年ぶりに上海に長く出張していますので、上海の今の肌感覚について発言させていただければと思います。

主に申し上げたいのは、二つあります。一つはジブリを始めとする観光コンテンツ、もう一つは、皆さんもおっしゃられた「サステナブルツーリズム」についてです。

まず、観光コンテンツです。日本でもニュースになりましたが、先月中国で公演された日本のアニメーション映画『すずめの戸締り』と『SLAM DUNK』は、驚異的な売り上げを達成しています。『SLAM DUNK』の方が20日間で約125億、『すずめの戸締り』は48日間で160億円の興行成績を収めています。経済や外交において両国に困難な局面もある中で、日本のアニメ、映画が中国の人に支持されている事実があります。愛知県にも、強力なコンテンツであるジブリパークがオープンしました。ジブリパークのオープンについては、私共のプラットフォームでも発信をさせていただきました。クリック率や反応は大変よかったのですが、ジブリ+他のインバウンドのコンテンツとして売り出すには、素材の使用という観点からみると、大変難しいと感じています。もし愛知県がジブリパークを愛知の観光のキーコンテンツとして推し進めていくなら、ジブリの素材を柔軟に使用できるような体制を整えれば、より強力なコンテンツとなると思います。

二つめのサステナブルツーリズムに関してです。私が今回長く上海に出張している理由は、来週から上海の南京東路のショッピングモールで、サステナブルツーリズムのイベントを開催します。欧米の方から見たとき、日本がサステナブルツーリズムを楽しむのにふさわしい訪問地だととらえられるかはわかりませんが、我々中国、アジアの国にとっては、日本はサステナブルの先進国で、特に意識の高い20代、30代のエリートの人向けや、研修ツアーに適していますよという情報発信は、我々メディアとして取り組むべきことだと考えています。今後もぜひ愛知県さんと一緒に取り組んでいけたらというふうに考えております。以上です。

○大澤委員長

はい。ありがとうございます。横山副委員長、いかがですか。

○横山副委員長

はい。皆さんの御意見、全く賛成ですが、少々違った角度から私のお話をしたいと思います。愛知県の観光計画の策定にかかわるのは、今回で3回目になりますが、徐々に事務局が提案する案のレベルが充実してきているなという印象です。

デジタルでのコミュニケーションはデータ取得・分析の観点からも非常に重要ですが、忘れてはいけないのは、マスメディアにしかない地位付与機能、あるいはレピュテーションを作る機能です。先日、タイム誌で名古屋と京都が「世界で最も素晴らしい場所」に選ばれましたが、これは、愛知県が2015年を「あいち観光元年」と宣言から、7年かけて取り組んだ成果だと捉えています。マスメディア評価は、先ほど陳内委員からコメントのあった、「シビックプライド」にもつながっていきます。世界から見たら、この愛知というのは非常に評価されているじゃないかと、住んでいる我々が地元を評価するきっかけになる。そのためには、このマスメディアの評価を、広報で使っていくということが大事です。例えば、「せとうちDMO」が、ニューヨークタイムズで“2019年行くべきディステーション”に日本で唯一選出（第7位）された際、ニューヨークタイムズへの広告出稿や各紙に対して、プロモーションをかけました。今回、愛知県もタイム誌に選定されたことを、広報に積極的に活用していくことによって、この地域のレピュテーションはあがっていくと思われれます。SNSとマスメディアの役割や機能を適した手法・タイミングで活用することがポイントです。

次にイノベーションについてです。イノベーション、簡単にいうと「新結合」で、異分野と異分野がぶつかり合うことで新しいものが生まれてくるということです。ジブリパークの開園によって、産業県だと思われていた愛知県が、実は豊かな自然に恵まれている等、愛知の魅力に気付いたビジターも多いのではないのでしょうか。「観光×農業」、あるいは「観光×漁業」、「観光×森」、そういった「エコツーリズム」、「グリーンツーリズム」のポテンシャルも非常に高い。以前ニースで「フラワーフェスティバル」ありましたが、花に的を絞った「フラワーツーリズム」も、出荷額1位である愛知であれば、観光ツアーにできるのではないのでしょうか。これは、赤崎委員がおっしゃられた部署をこえる取り組みになると思います。一つの課や局を越える横断的な取り組みは、所管の副知事にリーダーシップをとっていただくことを期待しています。また、鶴舞の「SATION Ai」ができることを非常に心待ちにしております。スタートアップ企業と農業などの産業が、観光を目的に交流することで、新産業が起これば、本当の意味での「イノベーションの創出」になるかと思えます。「イノベーションの創出」のところに、新産業を創出していくんだ、ということを加えてもよいかもしれません。この計画にイノベーションを入れたという意味合いは、愛知県として課や局を越えて観光に取り組んでいく意思の表れだと捉えています。

また、現在、愛知県として、1月から放送されている大河ドラマ「どうする家康」を活用した観光誘客に取り組んでいると思いますが、その効果検証をしっかりとしていくべきではないのでしょうか。2月時点で安城市の家康ゆかりの地には誘客効果が出ていると聞いています。メディアで取り上げられる時には、事前に準備をしていけば、ある程度の成果を得られるということを立証できるのではないかと思いますので、安城市や岡崎市とともにどれだけの効果があったのかということデータを基づいて検証していただきたいです。今回の大河ドラマでは、歴史好きでも知らないようなシーンが多くあります。番組によって地域資源が発掘されているので、それを磨いていっていただきたいです。大塚耕平さんの著書『尾張名古屋歴史街道に行く』には、尾張徳川家の三兄弟について詳細な歴史が書

いてあり、愛知生まれ、愛知育ちの私でも知らなかった歴史的事実を含みます。また、愛知県出身の学生も、愛知県にどのような観光地があるか全く知らないという状況ですので、教育現場においても歴史をしっかりと教えていくということが必要なのではないかとこのように考えております。

もう一つ、やはり「ターゲットをどうしていくか」という問題についてはプロモーションプランを考えていくにおいて大事ですので、それは次回以降の部会でお話をしていきたいと思っております。以上です。

○大澤委員長

はい。ありがとうございます。これで一通り、委員の皆さんからは意見をいただきましたが、私の方からも一言申し上げます。

事務局の中には、観光の計画づくりに初めて携わる方もいると思いますので、まずは、「観光基本計画」が他の行政計画とは決定的に違うものであることを、知っていただきたいです。というのは、教育やインフラ、防災の戦略は行政が最後にプレーヤーになることができるので、計画を作ったら粛々とそれを進めることができます。しかし、観光に関しては、行政がプレーヤーになれない、という非常に特殊な分野です。ですから計画を作ることの意味があるのか、というところから問わなければならないですし、計画を作ったとしても実際にどうやってやるのか、というところが非常に難しく、行政の計画としては非常に特殊にならざるを得ないという側面があります。色々な地域の観光基本計画づくりに携わっていますが、良い計画か悪い計画かはすぐにわかります。悪い計画というのは、「何をやるかは」多く記載してありますが、「誰がどうやるのか」の部分がなく、絵に描いた餅に終わってしまっています。ただし、観光を取り巻く環境は極めて可変的であり、「誰がどうやるのか」をどこまで具体的に書くかは非常に難しい問題です。その意味で、現行の計画で『あいち「ツウ」リズム』を打ち出したのは、画期的なことだと思います。というのは、愛知の「ツウ」を発信するということで「ツウ」の分野を並べましたが、これは行政がプレーヤーになってはできないという宣言をしたのと同じです。つまり、プレーヤーの方々と連携しなければいけないと舵をきったのです。次期計画では、連携のあり方というのを具体化してみたらどうかと考えています。

一つ具体化してほしいのは、まず「市町村の連携」です。基礎自治体がプレーヤーに近い場所にいるので、基礎自治体と県の連携の方法、特に「デジタルとイノベーション」という中で、先ほど浦田委員の方から県がガイドラインを作るといいのではないかとこの御意見がありましたが、私も、県がデジタルの活用法やイノベーションの創出に向けた姿勢を示していくというのが必要だと思います。そして同時に、ここからは市町村の方で進めていってください、といメッセージも伝えていかないといけないと思います。

連携についてもう一点、他の委員の方からも出ていたとおり庁内の連携です。観光コンベンション局の一部署だけでできることは限界があるというのは見えてきている。では、どうやって他の行政分野と連携していくのかということもきちんと書かないといけない。

観光コンベンション局が書いても所管の局から難色を示される可能性も十分あります。それでも、愛知県庁内に向けたメッセージとして明確化してほしいです。

また、横山副委員長の御発言にもありましたが、教育の場、高校や大学との連携も積極的に進めていかないといけないと感じています。それはもちろんシビックプライドであるとか、地域の人が地域を知る、というそういったメリットもありますし、もう一つあるのは「労働力確保」です。要するに労働力をきちんと確保していくためにも、観光についての理解を深めていくことが必要なのではないのでしょうか。愛知県で観光の仕事がしてみたい人たちが増えてくるような取り組みは県でないとできないと思います。

その場その場で柔軟に最適化していけられるよう、方針である「庁内連携を積極的に進めていきます」、「市町村との連携を具体的にしていきます」といった記載に留め、具体的な手法については各年度の施策の中で方針に沿った事業を盛り込んでいくと、より体系的な観光施策の展開ができると思います。

多くの委員の方々からご指摘いただいたとおり、かなり漠然とした形でも構わないので、ゴールのイメージを示していただくということが大事です。県民、事業者、観光客の全員が幸福を感じられる状況を目指すということだと思います。

観光まちづくりの仕事をしていて、綺麗事は、非常に大事だと改めて思います。綺麗事に聞こえたとしても、誰も反対できない目標を掲げるからこそ、対立のコミュニケーションではなく、同じ目的に向けたコミュニケーションができ、パートナーとして連携が可能になります。

私からは以上です。

それでは、オブザーバーの方々にも本日は参加していただいておりますので、一言ずついただければというふうに思います。御三方よろしく願いいたします。

○西村オブザーバー

はい。骨子案の施策の柱に、観光土産品の開発・発売促進と記載がありますが、これも産業観光の一つだと考えています。これまでの産業観光は、生産現場や産業遺産を観光の対象として捉えるという方向性でした。これからは、産業の活性化のために観光のチャンネルを使うというイメージで進めていくことが必要だと感じています。要するに技術を売る、それから生産物を売る、そのために観光を使うという発想が大事です。

数年前になりますが、名古屋商工会議所さんと連携をして「匠土産プロジェクト」を行いました。「観光」と「産業」のコンビを作ることで、そのまま産業の活性化につながるのが理想的であり、そういう意味で観光土産開発には、大変期待をしています。

また、観光庁の「観光立国推進基本計画」でも、日本の出国について触れられています。要するに来てくださりだけでは駄目で、こちらからも出ていくことを考えなくてはならないということです。「県民による県内観光の促進」も大切ですが、双方向交流という観点からいうと、愛知県と他の地域で交流を作り出すというような仕掛けを考えていくのが大事ではないのでしょうか。この視点は、交通機関の維持・活性化にも重要です。双方向の交流を作り出すためにどんな施策をやるのか、それから当然「休み方改革」も関連してくると

と思いますが、県内の人の動きの創出に合わせて、県外との交流をいかに生み出すかという考えを計画に反映させることも重要ではないでしょうか。以上です。

○大澤委員長

ありがとうございます。

○荻野オブザーバー

はい。中央日本総合観光機構の荻野でございます。

まず、今回の計画の内容、非常に充実した内容でございます。ありがとうございます。委員の皆さまからの御発言等も非常に勉強になりました。

私は、今まで様々な立場で観光に携わってまいりましたので、何点かお伝えさせていただきます。先ほど、赤崎委員が触れたように、観光現場はもう悲鳴をあげています。計画を策定しても、このままでは肝心の現場の火が消えてしまいます。コロナ禍に借り入れをした旅館、宿泊施設の方も、いよいよ返済が始まります。当然、行政が返済を直接肩代わりする施策はできませんが、今後、愛知県の観光事業者が、持続的に業を続けていけるような側面支援、サポートをしなければ、ここに掲げるような取り組みをそもそもできなくなるということを心配しています。

そして、二つ目でございますが、私も「広域連携 DMO」として、各自治体様の連携をサポートするという立場での計画の難しさというのも身をもって感じております。特にインバウンド客に関しては、一つの県ではこの地域に誘客するのは難しいため、私共は、9県で連携することで、魅力をあげる事業に取り組んでいます。中でも愛知県は、重要なゲートウェイですので、大きな受け皿になり得ます。愛知県はぜひ旗を振り、このエリアを引っ張っていただきたいと思います。

「観光 DX」に関しまして、我々もダッシュボードを整備し、デジタルデータを可視化する取組を進めています。このエリア全体各種データを見られるように整備をしています。この取り組み、愛知県、各観光協会とも連携して推進してまいりましたので、今後も活用していただきたいです。

持続可能な観光の実現を通じた「高付加価値化」に関しまして、我々、「サクラクオリティ」という宿泊施設の評価制度に、数年前から参加しております。「サクラクオリティ」の先になる「An ESG Practice」の資格を取得しますと、「GSTC」の評価に実は値するという事で「GSTC」の評価も認証いただける制度になりました。我々も引き続き高付加価値化に取り組んでいこうと思っておりますので、KGI や KPI を具体化する際に参考になるかと思っておりますので、ご紹介しました。

私からは以上です。

○大澤委員長

では、お願いします。

○榊原オブザーバー

愛知県観光協会の榊原です。

委員の御発言の中でも、持続可能な観光の取組や、「ツウ」をどのように獲得していくかという点も論点になっていたと思います。今回の骨子案を見させていただいて、非常によくまとまってはいる一方で、違和感があります。陳内委員もおっしゃっていましたが、「あいちツウリズム 2.0」やバージョンアップという表現です。コロナ禍を経て観光に対する世の中の見方が大きく変わっています。世間では、ようやく観光が経済活動の一つとして認識されたこともあって、私としては、今回の計画が単純な、「ツウ」のバージョンアップではなく、大きく世の中や価値観が変わった今に即して、より深く作りあげていくべきではないかと考えています。

資料2に記載の愛知の観光をめぐる環境なども、基本的には観光コンベンション局だけが所管している事項ではないと思います。こうしたことを、前向きに観光に生かしていくには、庁内の連携が重要です。例えば、リニア新幹線整備に関する事務局の分析では、ストロー効果をもって脅威と位置付けていますが、愛知県庁としては、リニア開通をこの地域に大きな効果をもたらすものと考えていて、脅威とはとらえていないと思います。愛知県庁内の交通部局の考えもしっかり聞いていただきたいです。見方が偏っています。

さらに、私の所属する県域 DMO の立場から意見させていただくと、「弱み×機会」で「県域 DMO の機能強化」を記載していただき、ありがたいと思う一方で、県の戦略に位置付けて、県の立場で具体的に何をするつもりでいるのかが不明瞭です。経営基盤が盤石な DMO では、入湯税や入村税などの財源を持ち、彼ら自身で戦略的に動くことができます。そうした財源が無い DMO の機能強化を愛知県としてどう考えているのか、財源や経営基盤といった県域 DMO が抱える課題まで切り込んでいくつもりがあるのかについても検討を進めていただきたい。全般的に、イメージが先行していて、表現に満足しているだけで、具体性に欠けるという印象があります。

また、KGI や KPI に入らないかもしれませんが、DMO と愛知県が一緒になってやってくという姿勢を出していただければと感じます。現時点でも、愛知県と愛知県観光協会が一緒に取り組んでいることは多いので、そういうところも表現された計画になるとありがたいです。

最後になりますが、やはり計画を作る上で、先手を打った考えをだすことが大切です。まずは、観光で盛り上げていくということだとは思いますが、オーバーツーリズム対策も先んじて検討を進めておかれると良いと思います。観光の先進地域である京都市さんですと、市民生活に影響が出るということでバスの1日乗車券をやめ、地下鉄乗車を促すなどに切り替えていると聞いています。インバウンド対策を考える面では、こういったことも視野に入れながら検討いただくとありがたいなと思います。以上です。

○大澤委員長

はい。オブザーバーの皆さん、ありがとうございました。

本日の議事は以上になります。今日は初回ということで、限られた時間の中で言い残し

たことも多々あるかと思いますが、それはまた次回の部会の時にお伝えいただければなというふうに思います。

また、今回いただいた意見も、今の段階では取り入れることが難しいことも多々あるかと思いますが、事務局の皆さんには、積極的に委員の皆様と話を聞きに行ってください、計画に反映できるよう議論を重ねていただきたいと思います。良い計画を作るという目標に対して、皆パートナーのつもりで参加していらっしゃると思うので、ぜひゆっくと御意見をお聞きするような場も今後増やして行ってほしいと考えています。

それでは、本日の議事については、皆様のご協力によって円滑に進めることができました。ありがとうございます。

また、事務局におかれましては、本日の議論を踏まえて、次期計画の検討を進めてください。

それでは、進行を事務局にお返しいたします。

○大参課長

大澤委員長、ありがとうございました。

また、委員及びオブザーバーの皆さま、大変貴重な御意見を本当にありがとうございました。いただいた御意見を元に、また事務局で検討を進めてまいりたいと思います。よろしくをお願いいたします。

次第では、4「その他」を用意してございますが、この機会に何か御発言のある委員の方々いらっしゃいましたら、発言をお願いいたします。

御意見ないようですので、以上で、本日の予定はすべて終了となりますが、若干の連絡事項をさせていただきます。次第の下方に、四角囲いがございます、今後、委員の皆さま方には2つの部会に分かれていただきまして議論をいただきたく存じます。

観光マーケティング部会でございます、6月26日（月）午前10時から正午までの予定で、観光地域づくり部会は翌日6月27日（火）の午前10時から正午まで開催を予定としております。

両部会とも、今回と同じくハイブリッド形式にて開催を予定しております。オフラインの会場は県庁を予定しております。

また、具体的に決まりましたら詳細につきましては、追って、事務局の方から御連絡させていただきます。

それでは、長時間に渡りありがとうございました。これをもちまして、次期愛知県観光振興基本計画（仮称）検討委員会の第1回全体会合を終了させていただきます。

本日は、どうもありがとうございました。

（了）

